

採択事業 No. 3

種 別：行政提案型事業

団体名：宝塚温泉まつり実行委員会

事業名：宝塚温泉まつりを軸に“自然の恵みと景観”を
次世代に継承しコミュニティを発展させる事業

交付決定額：500,000 円

（事業を行おうとした動機）

日本の漫画文化の基礎をつくった手塚治虫氏は幼少期から青年期を宝塚（川面・御殿山）で過ごしました。幼少期「蛇神社」「猫神社」と名付けた神社の近くで昆虫採集を楽しむ中で、どんなものにも、かけがえのない命があることを知り、青年期には戦争体験もしました。彼は晩年、「蛇神社からの山の眺めが一番好きだった」と語るように、漫画の原点である「自然への愛」や「生命の尊さ」は宝塚の自然・環境が育んだものです。

宝塚市民は日常的に“自然の恵み”の恩恵に触れ、自分だけの「宝塚景観」を持っています。温泉、炭酸、里山、景観。これらは、次世代に伝えるべき大切な地域遺産です。

宝塚温泉まつり（温泉街衰退で消滅）の再興の背景

武庫川から湧き出る炭酸。武庫川、里山からの”自然の恵み”。武庫川から見る景観。市民の共有財産であり子ども（次世代）に継承すべき“お宝”です。「地域の魅力再発見！名所旧跡まちあるき」では旧温泉街の今昔ポイントを探索するイベントを6年継続。毎回親子中心に約140人が参加者の感想から以下5つの気づきがありました。

- ① 温泉街の歴史や自然の恵みを地元住民（震災後マンション街に約1万人転居）が知らない。もっと知りたいニーズがある。
- ② 武庫山の森や滝など徒歩圏内に手つかずの自然や発掘に値する景観が多くある。（まち山に猪が生息し、修験道の行者たちが修行した滝が、当時そのまま現存する）
- ③ 塩尾寺・宝塚聖天住職さん、旅館の女将さんなど“語り部”から歴史が聞ける。
- ④ 宝塚公会堂に保存されている「子ども神輿」を見守る子どもたちが「担ぎたい」と言い、担がせて地域を歩かせたいという保護者や高齢者のニーズがある。
- ⑤ 武庫川右岸が整備で、市民が景観を楽しみ、ラジオ体操など利活用を始めた。

この5つが動機となり、令和2年8月、まちづくり協議会の地域ネットワーク会議で「宝塚温泉まつり」の再興が提案されました。市民有志が令和3年2月地元自治会、塩尾寺、ホテル若水（旅館組合）で世話人会と実行委員会を発足させ、第1回温泉まつりを2021年7月25日に開催、700名参加。武庫川左岸で無事終わりました。子ども広場では、ダンボール遊び、石ころアート、恐竜釣りなど子どもたちの遊びから学

びにつながる工夫、親子が外で気兼ねなく過ごす楽しい時間づくりを心掛けました
第2回は2022年5月1日約800人参加。芝生化された武庫川右岸で開催しました。
「中高生が地域で活躍する舞台」としてまつりを位置づけ、舞台の司会を宝梅中学の放送部生徒が担当、各ブースに中高生をスタッフとして配置。小学生、未就学児童に遊びで交流する場が生まれました。

実行委員メンバーは宝塚第一小学校育友会などで子育てを縁に出会った旧知の仲間。自らも子どもの頃遊びを経験。子育て中で助け合ったつながりもあります。感染症の影響でこの2年間は「黙食給食」が当たり前、運動会も修学旅行も中止となり、今の子どもたちの現状に心を痛めていました。外遊びでもいいから「人と人が触れあい、遊び、笑いあう」機会を作りたいと一致。手塚治虫さんのように「一番好きな景観」の下で、家族やみんなで楽しく過ごす時間を子どもたちにも…。そんな親たちの願いと顕在化した5つのニーズ（動機）が合致しまつりは2021年に始まったのです。

（事業を行う目的と期待される効果）

事業の目的は、第一に次世代を担う子どもたちに、温泉の歴史・文化、自然の恵みに気づく心を継承できる。第二は地域コミュニティの発展。温泉全盛期を知る住民と、震災後転居したマンション住民約1万人との分断を共生社会に転換する。第三には、2025年に宝塚ホテル跡に転入する650世帯の新住民も「協働のまちづくり」に巻き込み、宝塚市の中心市街地にふさわしいコミュニティ＝市民自立型のまちづくりが期待されます。これは市の第6次総合計画「基本構想・基本計画」の根幹であり「一小校区地域まちづくり計画」の重点課題に一致します。

（1）本事業と「第6次総合計画（基本構想・基本計画）」への推進効果

- ①全世代で市民主体・市民協働でまつり準備←基本構想1都市経営共に創り未来になぐまち
- ②幼い時から自然や景観に触れ、祭りに参加することで、故郷への愛や誇り＝自尊感情を育むことができる←基本構想4子どもの生きる力が育つまち「豊かな自然で遊び学び心豊か」
- ③武庫川左右両河川敷で温泉まつり←基本構想5-1都市景観「宝塚らしさを感じる景観」の魅力向上
- ④左岸は宝塚歌劇や芸文センター、右岸は市民が広場として利活用。ゾーンの役割を都市計画の基本コンセプトとし回遊プロムナード構想へ付加価値、中心市街地の再生の可能性へ繋がる←基本構想2。河川の整備や土砂災害対策、憩いや安らぎある水辺空間←基本計画2・4南部地域の持続的まちづくり、地域特性を踏まえながら駅周辺への多様な都市機能の誘導の促進。
- ⑤徒歩圏内の自然や発掘に値する景観紹介←5・2緑化・公園、里山・まち山の保全・

再生

- (2) 本事業と「一小地域ごとのまちづくり計画重点課題1, 2, 4」の実践
- ①中学生がまつり司会進行←重点4「次世代を育む」中高生が地域で活躍する場づくり
 - ②地域の魅力再発見事業を引き続き継続し昔を知る住民と震災後のマンション街の住民との交流を促進←重点2「地域をつなぐ」マンション居住者と情報共有・コミュニケーション
 - ③コミュニティの核となるまつりを再興し歴史文化の継承←重点1継承と発展（歴史・文化・環境・賑わい）武庫川右岸まちづくり、多世代交流、文化歴史に触れ地域への愛着と誇り醸成
 - ④「湯のまちの歴史の冊子」を小中学校に広く配布。これをベースに、児童生徒にいる子どもたちから「まちづくり」提案。児童生徒によるまちづくり提案シンポジウムで提案←次世代育成、重点4「次世代を育む・中高生が地域で活躍する場づくり」
- (3) 景観の発掘、魅力ある持続的なまちづくりを日常的に作り出す
- ①まちの魅力景観や観光ポイントの案内版を市民手づくりで作る
「マイクロツーリズム」や障害者も含め誰もが安心して旅行を楽しめる「ユニバーサルツーリズム」を实践。2025年万博へ向け宝塚が輝く未来を展望できる←6・1(2)観光資源の発信
 - ②炭酸ウイルキンソン 100年を記念にタンサンのイメージソングに中高生がこれに振り付けて、フォークダンスを楽しむ。
 - ③宝塚の歴史秘話、自分だけの景観ポイントや写真を集める

(事業の内容)

- (1) 第2回宝塚温泉まつり
- (実施時期) 2022年5月1日(日) 午前11時～午後3時
- (場 所) 武庫川右岸芝生広場
- (参加人員) 約800人
- (目 的) 宝塚温泉の歴史、伝統舞踊や文化を学び、景観を楽しむ、
- (ターゲット) 親子参加。終日楽しめる場づくり、青少年の舞台づくり
- (協力団体) 宝塚自治会、宝塚南口自治会、一小まち協、塩尾寺、櫻守の会宝塚温泉旅館組合(ホテル若水)、アサヒ飲料、ナチュラルスパ宝塚
- (内 容) 子ども広場&パフォーマンスステージ
紙芝居、温泉クイズ、温泉写真展、木工作、竹トンボ遊び、石ころアート、恐竜釣り、ぶにぶにすくい、シニアダンス、民謡、音楽バンド
- (担 手) 25団体約100人の実行委員(第1回の実行委員50人)

(成 果) 当日舞台の司会を宝梅中の放送部が務めるなど若い世代の担い手が参加。第1回宝塚温泉まつりは2021年7月25日武庫川左岸にて700人規模で安全に開催する概要が完成。第2回目は若い世代を舞台に上げ、各ブースに高校生や大学生を配置して小学生児童と対話する運営など、目的意識的努力が実り目指すまつりづくりへのステップとなった。

(2) 児童向け歴史温泉漫画「ナゾの湯のまち宝塚」を武庫山幼稚園、一小全児童、西山小、宝梅中・光ガ丘中生徒に贈呈

「令和3年度宝塚市きずなづくり推進事業」補助金のもう一つの柱として、「宝塚温泉の歴史と自然の恵みを学べる児童向け冊子（令和4年3月発行）づくり」を計画に挙げておりました。昨年度の事業として宝塚市在住の漫画家細川貂々さんが児童向けに歴史温泉漫画「ナゾの湯のまち宝塚」を完成させ、一小3年生4年生対象400人に進呈しました。この冊子は好評で第2版として増刷、令和4年度事業として、武庫山幼稚園、一小児童全員、宝梅中、光ガ丘中生徒全員に進呈します。

(3) 温泉の歴史と持続的な景観まちづくりSDGs⑩-10代の声を集約してシンポジウム

「ナゾの湯のまち宝塚」を児童生徒に配布。まちづくり提案を募り発表の場をつくる

(実施時期) 2022年11月

(場 所) 宝塚市中央公会堂

(参加人員) 約100人

(内 容) 宝塚温泉の歴史、まちづくりを学び、小中学生のチームでまちづくり提案

(ターゲット) 青少年の舞台づくり

(協力団体) 宝塚温泉旅館組合など企業、行政、識者

(成果目的) 地域資源を生かしストーリーを構築し未来を創造する

【オプション企画】→今年度については、補助金対象外事業とします

宝塚炭酸ウイルキンソン100年ータンサンのイメージソングでフォークダンス！

100年前のウイルキンソンのイメージソングの楽譜が郷土史家鈴木博氏の手で発掘された。中高生にダンス振付、演奏を依頼

第3回宝塚温泉まつりで披露する。